第7号　昭和55年11月

教皇様の声

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済
©1980 精道教育促進協会 ☎(芦屋)三二・三四五二 芦屋市船戸町12—6

家庭と家族

人間の生命と神の尊厳

生命を祝福しよう

人間にとって侵すべからざる幸福とは何であるか

およそ百万人が教皇司式のミサに参加した。場所はキャピトル・モール、合衆国国会議事堂とリンカーン記念堂のあいだにある広大なみどりの芝地である。教皇のアメリカ合衆国における最後の宗教儀式だった。福音書朗読のあと教皇は以下の説教をされた。

イエズス・キリストにおいて兄弟であり姉妹であるみなさん、

1　ある日イエズスは、聴衆と対話をかわしておられたときファリザイ人たちのこころみをうけました。結婚の本質について当時のファリザイ人たちがいだいていた考えを、イエズスに承認させようとしたのです。イエズスは聖書の教えをくりかえして、お答えになりました。「創造のはじめから、神は人間を男と女とにおつくりになった。ゆえに、人は父母をはなれそして二人は一体となるのであって、もう二人ではなく一体のものである。だから、神がお合せになったものを、人間が離してはならない。」(マルコ10・6～9)

マルコによる聖福音書では、このあとすぐに、皆よく知っている情景が述べられます。すなわち、人びとは自分の子どもたちをイエズスに近づけようとします。しかしそれを、ほかならぬ弟子たちがなんとか邪魔しようとしたのです。そのことに気づいたイエズスはおいかりになり、こういわれました。「幼い子たちを私の方に来させなさい、とめてはいけない、神の国をうけるのは、このようなものたちである……そしてかれらをだき、手をおいて祝福された」(マルコ10・14～16)のです。こうしたことを読むと、わたくしたちは皆かんがえずにはいられますまい、結婚の本質を、家庭を、生命の価値を、です。この三つのテーマはたがいに密接に関連しあっているのです。

2　神のみことばについてかんがえよう、と教会はいま提案しています。わたくしもこれからはますますよろこんで、そうすすめるでしょう。あらゆる教区、国ぐにでおこなわれている結婚と家庭生活のありのままの現状について、いま世界じゅうの司教たちが討論をかさねているからです。こんどの世界司教会議にそなえてのことです。そのシノドスのテーマこそ、「現代世界におけるキリスト信者の家庭がもつ役割」にほかなりません。(今回のシノドスは九月末から十月にかけて開催されました。)

3　あなたがたのまえで、また全世界の人びとのまえで、わたくしはためらうことなくいいましょう。人間の生命は、懐胎のその瞬間から、またそれにつづくあらゆる時期において、すべて聖なるものである、それは神の姿に似せて創造されているのだから、と。人間の偉大さ、侵しがたさを超えるものはないのです。人間の生命とは、たんなる観念とか抽象的なものとかではありません。具体的に実在しているものです。それをもっているものは、生き、活動し、成長し、進歩し、また愛したり人類に貢献したりできる。そういう存在がもっている具体的で現実的なもの、それが人間の生命なのです。

最近わが故国に巡礼したおり語りましたことを、もういちど、くりかえさせてください。「ひとがはじめて母の胎内に宿されたときに、その生きる権利をふみにじれば、それはまた、道徳秩序ぜんたいに対しても、間接的に打撃をくわえることになるのです。この道徳秩序のおかげで、人間にとって侵すべからざる幸福とは何であるかが、はっきりしていました。なかでも生命は第一のものでした。教会がこの生きる権利を擁護する理由もそこにあります。生命をあたえたもうた第一のかた、創造者たる神の尊厳を侵さぬためだけではありません。人間のいちばん大切な幸福をかんがえてでもあるのです。」(一九七九年六月八日)

生命は永遠である

4　ひとのいのちはとおといものです。神が無限の愛によってあたえてくださったからです。そして神のあたえたもうたいのちは、いちど存在しはじめると、永遠に存在しつづけるのです。いのちがとおといのはまた、それが愛のあらわれであり、愛のみのりだからです。だからこそ、いのちは結婚を背景にして生まれなければなりませんし、その結婚をきわだたせるもの、親となったふたりの相互の愛を特色づけるものは、自己をささげようとする寛大なこころであるべきなのです。快楽、安楽、独立自尊を崇拝するようなあらゆる社会のただなかにあっては、人びとがこころを閉ざし、利己的になるという点に、家庭生活のおおきな危険があります。おわりのない義務にしばられることをおそれるあまり、夫婦たがいの愛は、ふたつの自己愛に変わってしまいます。ふたつの愛が交わることなく平行に存在し、分かれたまま終ってしまうのです。

ひとは洗礼においてキリストのからだとなり、以後その生涯をとおしてキリストの生き方を自分たちの生き方にすべき義務を負います。そうした男女に婚姻の秘跡は、必要な手助けを保証するのですが、それが目ざしているのは、忠実な分かちえぬ結びつきのなかでふたりの愛を発展させ、寛大なこころで親になるというめぐみに応えることです。第二ヴァティカン公会議が宣言したように、この秘跡をとおしてキリストご自身が、結婚したふたりの生活にたちあらわれ、ふたりにつきそいたもう。それは、キリストが教会を愛し教会のためにご自分をささげられた、ちょうどそのように、夫婦がたがいを、また子どもたちを、愛するようになるためなのです。(『現代

世界憲章』48、エフェゾ5・25参照)

家庭の責任

5　結婚したふたりがあらゆる面で幸福になり成長していく、そのことを大切にしたいなら、キリスト信者の結婚生活は、そのちからのいぶきを福音書からうけねばなりませんし、したがってあたらしい生命にむかってひらかれていなければなりません。あたらしいいのちは、めぐみであり、ひろいこころで受け容れられるべきものです。子どもがしあわせに、しかも人間としてキリスト信者として、充実した価値のある生活をすごせるような家庭の雰囲気をつくりだすこと、夫婦はそのために召しだされてもいるのです。

家庭があかるいものでありつづけるには、親にも子にも多くのことが要求されるでしょう。家庭のメンバーはそれぞれに独特なしかたで、ほかのひとに仕え、その重荷をになわなければなりません。(ガラツィア6・2、フィリッピ2・2)それぞれが、自分じしんの生活だけでなく家庭のほかのメンバーの生活にも、関心をもたなければなりません。ほかのメンバーの要求・希望・理想に気をつかわなければならないのです。子どもの人数を決めるとき、また子どものために払うことになる犠牲をおもうとき、それでどのくらい気楽になれるかとか安楽な生活がたもてるかとかの面ばかりを、かんがえてはいけません。神のまえに出ておもいをめぐらし、秘跡の恩寵をうけ、教会の教えにしたがうならば、親たるもの、つぎのことをおもいだすでしょう。現在いる子どもから、ある程度の気楽さや物質的な利益をとりあげることよりも、兄弟をうばうほうがたしかに深刻だ、ということです。兄弟は、人間社会での成長をうながし、あらゆる年齢におけるあらゆるかたちの生命の美を、気づかせてくれるかも知れないのです。

この偉大な秘跡はさまざまな命令とよい機会とをもたらしてくれるのですが、それを十分に認識した親は、生命のつくり手に対するマリアの讃歌に、まちがいなく声をあわせることでしょう。神はかれらをご自分の仕事の仲間にえらばれたのです。

どのひともひとりしかいない

6　どのひとも神がおつくりになりました。どのひとも、キリストのご託身とすべての人のための贖いとによって、キリストの兄弟とよばれます。そういうものとして、どのひとも、この世にひとりしかいない存在です。それゆえにすべてのひとの価値を認めなければなりません。わたくしたちにとって人間の生命が聖であるのはこうした前提にもとづいています。この同じ前提にもとづいて、わたくしたちはいのちを、人間の生命すべてを祝福するのです。こうしたわけでわたくしたちは、人間のいのちをおびやかし弱めるあらゆる影響、行為から、それをまもろうとするのです。一人ひとりの生活をあらゆる面でいっそう人間にふさわしいものにしようとするのも、同じ理由によるのです。

だから、人間の生命がおびやかされればわたくしたちはかならず立ちあがります。誕生まえの聖なる生命が攻撃されれば、立ちあがって宣言しましょう、いまだ生まれぬいのちを破壊する権限は絶対だれにもない、と。子どもをお荷物だといい、気分的な必要を満たす手段としかかんがえないなら、立ちあがって言い張りましょう、子どもは一人ひとり、この世にひとつしかない存在、神のめぐみであり、愛ふかく、結びつきのつよい家庭に育つ権利がある、と。人間のわがままから結婚制度が利己主義にうちまかされ、たやすく結末をむかえるような一時的で条件づきの契約結婚になってしまうなら、わたくしたちは立ちあがって主張しましょう、結婚の結びつきは解消できない、と。社会的、経済的な圧迫のせいで家庭の価値がおびやかされるなら、立ちあがり、くりかえしましょう、家庭が「必要なのは、各人の私的な幸福のためだけではない、全社会、全国民、全国家の公的な幸福のためでもある」(一般謁見、一九七九年一月三日)、と。自由の名のもとに、弱い者を支配し、天然の資源とエネルギーを浪費し、人びとに基本的な必要物をあたえないなら、立ちあがって声をあげましょう、正義と社会愛とをもとめる、と。病人、老人、また死とむかいあっている人びとが、ひとりきりでほうっておかれるなら、立ちあがっていいましょう、あの人たちは、愛され世話され敬われてしかるべきなのだ、と。

愛する兄弟、愛する姉妹よ、わたくしたちには自信があります。神の母したがって「生命」の母なる聖マリアのたすけをえればこそ、神の愛のめぐみであるいのちへの讃美と感謝がわたくしたちの生きかたにつねにあらわれることでしょう。わたくしたちは知っています。聖母マリアのたすけをえればこそ、わたくしたちは、あたえられている日々をよい機会となし、いまだ生まれぬひとの生命をまもって、いづこのひとであれ、友たるすべての人間のいのちを、人間にいっそうふさわしいものとしていけるでしょう。

そして、きょうわたくしたちがその祭日を祝っているロザリオの元后のとりつぎをとおして、いつの日か、われらが主キリスト・イエズスにおける永遠の生命の豊かな完全さに、あづかることができますように。アーメン。

教会の基本的な役目と人類の忠実

まことの愛を忠実に

婚姻は取り消せない

(…)福音のごとき公正さと牧者としてのあわれみ、キリストの愛をもって、みなさんは婚姻の不解消性の問題に立ち向かい、いみじくも述べられた。「キリスト教の婚姻によって結ばれた男女の契約は、神の人間に対する愛とおなじく、またキリストの教会に対する愛と同様に、解消することのできないもの、取り消せないものである」と。

避妊は認められない

婚姻の美しさをたたえるに、「フマーネ・ヴィテ」にあるように、避妊と避妊行為に反対されたことはまことに正当であったと思います。わたくしもきょう、パウロ六世と心をひとつにして、回勅の教えを再確認します。わたくしの前任者が発布した回勅は、「キリストから委任された権能によって発布されたものなのです。」　夫婦の性交は聖なる契約をかわした夫婦にのみ認められた、愛の特別な表現であると説明されたことは実に正論であります。「性交は、婚姻の中においてのみ道徳的であり、人間的にも良いことであるが、婚姻のわく外では不正である。」

同性愛は道徳的にあやまり

みなさんは「真実の伝達者、神の力の保持者として」(コリント後6・7)、また神法の正当な指導者、あわれみ深い牧者として、次のことをも述べられましたが、これはまた、まことに正当な教えです。「同性愛の行為は道

説教・講話・書簡等の抄訳

徳的に誤りである。」この点をはっきりとさせるために、みなさんはキリストがいかに愛に満ちた方であるかを示されました。そうすることによって、同性愛のために道徳的困難に直面している人々を裏切らないですんだのです。理解とかあわれみとかの名のもとに、兄弟姉妹たちに誤った希望をもたせなかったからです。それどころか、神の御計画による人間の本来あるべき姿を証すことによって、兄弟愛を示されました。また、神のみ言葉の光りに照された教え、キリストの教会の教えを求める人々の真の尊厳、真の威厳を表してくださったのです。

生まれるまえの生命

みなさんは真理の証人として、「受胎のその瞬間から、生命は最大の配慮をもって守られねばならない。」(『現代世界憲章』51)と、公会議の教えをくりかえすことにより全人類に貢献された。誕生前の子どもの生命をふくめたすべての人命の不可侵性と生命への権利を、再確認されました。次のようにはっきりと宣言されたのです。「これら罪なき生まれる前の子供たちを殺すことは、ことばでは言い尽くせないほどの恐ろしい犯罪である。…このような子どもたちの生命への権利は、法によって認められ、全面的に守られるべきである。」

安楽死は悪である

まだ生まれていない子どもの生命を弁護すると同時に、みなさんは老人たちのためにも、はっきりと言われました。「安楽死は、恐ろしい道徳的悪(罪)である。…このような致死方法は、人間の尊厳と生命への尊敬に反するものである。」

住居と教育、健康、仕事、正義の行使など、人々のあらゆる必要に対して牧者としての関心をしめすにあたり、人間の生活はどの面をとりあげても聖なるものであるという事実をさらに証言されました。教会は人間と人間の世俗的必要を見棄てることは絶対ありえないことを宣言されました。教会は人類を救いと永遠の生命へと導いているからです。また「いつの時代においても、しかしとくにこんにちの教会の基本的な役目と人類の忠実とは、人人の視線を正しく方向づけて人類全体を神の神秘に気づかせ、またそれを経験させるべく、教えることである。」(『人類の救い主』10)このようなわけで、永遠の生命について述べたことは的を得ているわけです。実に永遠の生命を宣言することにより、物質主義の攻撃や蔓延した世俗主義、あるいは道徳的放任主義を目にしても人々が希望を抱くための動機を与えたことになるのです。

(一九七九年十月)

『なんでもあの人のいう通りになさい』

(…)マリアはつねにイエズスとひとつでありました。福音書にマリアのことばを多くみつけることはできませんが、福音書にあらわれることばはたいていキリストとキリストのおことばに関係があります。カナの婚宴のとき、マリアは視線を御子イエズスからしもべたちに移し、「なんでもあの人のいう通りになさい。」(ヨハネ2・5)と言われましたが、そのマリアはいまも同じことばをわたしたちに告げておられます。「なんでもあの人のいう通りになさい」と。

ところで、イエズスは、福音書や使徒たちの書簡を通してわたしたちに語りかけておいでになります。主イエズスのおことばをよく知らなければなりません。そのためには、御ミサのときのみことばの祭儀に注目し聖書朗読に耳を傾け、また自分で聖書を読まなければならないでしょう。家族そろって、あるいは友人と一緒にロザリオの祈りを唱えるとき、主のおことばについて考えつつ祈りながら、マリアの生涯を黙想することが大切です。疑いにおそわれたり、困難に出会ったりしたとき、あるいは、信仰にしたがって生きるため何か決心をしなければならないとき、そのようなとき、主イエズスのおことばは慰めとなり、導き手となるのです。(ノックの聖母聖堂にて)

『教皇様の声』を読もう

教皇さまの教えをよく知って
教皇さまのご来日に応えよう

◉日曜日毎の「お告げの祈り」のときや水曜日毎の一般謁見のときを始め教皇さまはあらゆる機会をとらえて教えを伝えておられます。

◉ところで教皇さまは直接きくことのできる人だけでなく私たちみんなのために話して下さいます。

◉教皇さまの教えをよく知っておくためには、教皇さまのおことばや勧めをたえず読まなければなりません。

◉『教皇様の声』はこのような目的のために生まれました。教皇さまのおことばを毎月そのままお伝えします。

◉『教皇様の声』はまた教皇さまの心に近づき、より一層教皇さまを愛するためであります。

◉教皇さまのお話の要約はすぐに入手できますが、おことばをそのまま読む方がよいのではないでしょうか。

◉『教皇様の声』を毎月読み教えを知り、教皇さまのご意向に一致しよう。

年間購読申込方法

◉毎月配布されている教会等では教会へお申込みください。
年間購読料(1月~12月)720円

◉個人でお申込の方は1,440円(年間購読料720円+送料720円)を郵便振替にてお送りください。2部以上ご希望の場合、下記の送料が必要です。

年間送料　2~4部　840円・5~8部　2,040円
9~19部 2,880円・20部以上無料

(郵便振替　神戸072393　精道教育促進協会)

◉第1号からの在庫があります。同時にお申込みください。

不変の教え

『要理教育に関する使徒的勧告』第一回
唯一の教師イエズス・キリスト

シノドス第四総会は、たびたびすべての正しい要理教育のキリスト中心性を強調した。

それで、要理教育の概念の中には、「父のひとり子で、恩寵と真理にみちた」ナザレトのイエズス・キリスト自身が含まれていることをまず認めなければならない。このキリストは、私たちのために苦しみ、そして死なれたが、すでに復活されたから、私たちとともに常に生きておられる。この方は、「道、真理そして生命」であり、キリスト教生活はキリストに従うこと、つまり「キリストの弟子」であるところにある。要理教育の本質的かつ第一の対象は、聖パウロと現代の神学者に用いられている表現によると、キリストの秘義である。要理教育を施すと言うことは、ある意味で、誰かにこの秘義をあらゆる面から探させることである。それは、「秘義の分配とはどのようなことかをすべての者に説明し、……神のすべての豊かさにみたされるため、広さ、長さ、深さ、高さがどれほどのものかをすべての聖者とともに語り、すべての知識を越えるキリストの愛を知ることである。」それで、これは、キリスト自身において実現された神の永遠普遍の計画をそのキリストにおいて明らかにすることにほかならない。それはまた、キリストの業と言葉の意味とキリストが行われたしるしの意味とを理解するよう努めることである。それはキリストの秘義を含み、また示しているからである。この意味で、要理教育の究極の目標は、誰かが単にキリストに接触するだけでなく、キリストとの交わり、いな、キリストとの深い親しみに入るところにある。実際、キリストだけが私たちを聖霊において父の愛に導き、至聖三位の生活に与らせることができる。

キリストの教えを伝える

しかし、要理教育のキリスト中心性は、それによって自分あるいはほかの教師の教えを伝えようとするものではなく、キリストの教え、すなわち、キリストが私たちに知らせる真理、あるいは、もっと正確に言うなら、キリストそのものである真理を伝えるところにある。それで、要理教育においては、神のみ子、託身のみことばキリストが伝えられ、ほかのものはキリストに関わりがある限り教えられ、またキリストだけが教え、ほかの人は、キリストの代理者、またはその解釈者として、キリストがその人の口で語る限りで教えるものであると言わなければならない。それで、すべての要理教師は、教会の中で果たす役職のいかんを問わず、自分の授業と態度によって、イエズスの教えと生活を伝えるよう努めねばならない。要理教師は、要理を学ぶものの精神と心の注意および同意を自分自身、自分の個人的意見および態度に従わせようとしてはならない。とくに、自分の見解や個人的な好みをあたかもキリストの教え、および生活の教訓を表わすかのように他人に押しつけてはならない。「私の教えは私のものではなく、私を遣わしたかたのものである」というキリストの不思議な言葉はすべての要理教師に当てることができるはずである。聖パウロが、「私があなたがたに伝えたのは、主から私が受けたものである」と言って、極めて重要な問題について語ったときに、そのようにした。要理教師が、「私の教えは私のものではない」と言えるためには、教会教導権から伝えられた神のみことばをどれだけ熱心に学び、キリストおよび父とどれだけ深く交わり、祈りの精神にどれだけ徹し、自分からどれだけ離脱しなければならないことか。

教えるキリスト

この教えは、抽象的な真理の集成ではなく、むしろ神の生きた秘義の伝達である。実際、福音でこの秘義を教えるかたの卓越さとその教えの性質は、そのかたが語ることと、することと、有ることとの間にある特殊な関係によって、イスラエルの教師たちのそれをはるかに越えている。イエズスが時折「教えた」ことは福音によってはっきりしている。使徒行録の序文の「イエズスは行い、また教え始めた」と言う言葉によって、聖ルカは、キリストの使命における二つの極を結び、同時に分けている。

実際、イエズスは教えた。これは、「私は毎日神殿に座って教えていた」とご自分について証明した通りである。福音記者たちは、イエズスがかつて見たことのない権威をもって、常に到るところで教えるのを見て驚き感嘆した。「群衆がまたイエズスのもとに集まり、そこでイエズスは、いつものように教えていた」「人々はその教えに非常に驚いた。権能のあるもののように彼らに教えていたからである」イエズスの敵も、「ガリラヤからここまでユダヤ全地にわたって教え、民を扇動している」と、イエズスを訴え、罪にする理由にはしたが、イエズスが教えた事実を分かっていた。

唯一の教師

このように教えているものは、当然、「教師」と呼ばれるに値する。新約、とくに、福音書の中で幾度、この呼称がイエズスに与えられていることか。イエズスを感嘆と信頼と親愛の口調で教師と呼んでいたのは、無論十二人、ほかの弟子たち、多くの聴衆である。しかし、ファリザイ人、サドカイ人、律法学者、一般ユダヤ人までが、「先生、私たちにしるしを見せて下さい、」「先生、永遠の生命をうるにはどうしなければなりませんか」と言って、教師の呼称を拒んではいない。しかし、とくに、厳粛かつ意味ある瞬間に、自分を教師と呼んでいるのはイエズスご自身である。「あなたたちは私を先生、主と呼ぶ、それは正しい。私はそのようなものだからである。」イエズスは教師であるご自分の特殊性と唯一の特徴を明らかにして、「あなたたちの教師は唯一人、キリストだけである」と仰せられた。それで、約二千年にわたり、あらゆる身分、種族、国の人が、あらゆる言語を用いて、「先生、私たちは、あなたが神のもとから来られたことを知っています」と言うニコデモの言葉をそれぞれ繰り返し、うやうやしくこの称号をイエズスにささげたことが理解される。

それで、私は現代の要理教育についての考察を始めるに当たって、キリストの姿を想起したい。このような教えるキリストの姿は、威厳にあふれていると同時に親しみがあり、心を感動させると同時になごませるものである。それは、福音記者によって描き出され、次いで、教会の初代からしばしば聖画に表現された極めて魅力的な姿である。

生活全体を通して教える

それにしても、教えるイエズスの威厳とその教えの一貫性および説得力は、その言葉とたとえ話と論争がその生活および人格から分離できないところから来ることを忘れるものではない。この意味で、キリストの生活全体が不断の教えであった。つまり、その沈黙、奇跡、業、祈り、人間への愛、弱いものと貧しいものへの特別の愛、人々の贖いのために引き受けた十字架の犠牲、最後に復活そのものが言葉の遂行であり、啓示そのものの成就である。それで、十字架のキリストはキリスト信者にとって、師であるキリストの最も崇高な、また最も顕著な姿となった。

『要理教育に関する使徒的勧告』
（枢機卿里脇浅次郎訳）発行　中央協議会

『教皇様の声』　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙　■毎月　十日発行　■定価　一部六十円送料六十円　■一年予約七百二十円送料七百二十円　■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替　神戸　072393